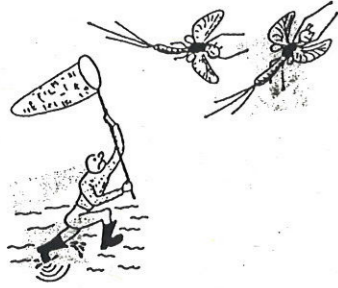


すゝかんぼ

★ 研究室だより NO.1 1992年4月号



アミメカゲロウの 謎!

今から14年前(1978年)の9月11日、宇都宮市内の息怒川で正体不明の昆虫の大発生が起こった。道路に2~3cmの高さに降り積り、死骸を踏んだ車がスリップし、合計20台の車が玉突き事故を引き起こし、翌日の新聞をにぎわすこととなった。この昆虫、アミメカゲロウとして、それまで

日本ではほとんどみつかっていなかった珍しい種であることが判明したのだが、なぜかこの年の同じ頃、日本各地の河川で

大発生が起こったのだ。宇都宮での大発生はここ数年おちついてきているが、福島県の阿武隈川では毎年大発生する日には、交通規制が行われているらしい。

たかが昆虫といえども、その数が何万、いや何億の単位になると、確かにただものではない。さらに不思議なことに、息怒川にはアミメカゲロウはほとんどメスしかいないのである。

つまりオスがいないでも子孫を残せるのである。ヒトではよく知っているとおり、卵に精子が合体(受精)することにより

発生が始まるわけだが、アミメカゲロウは精子どころかオスそのものを必要としないのである。

ところが、ますます不思議なことが明らかになった。

阿武隈川ではメスだけでなく、オスも発見されたのだ。しかもオスとメスがほぼ同じ割合で生息しているというのだ。

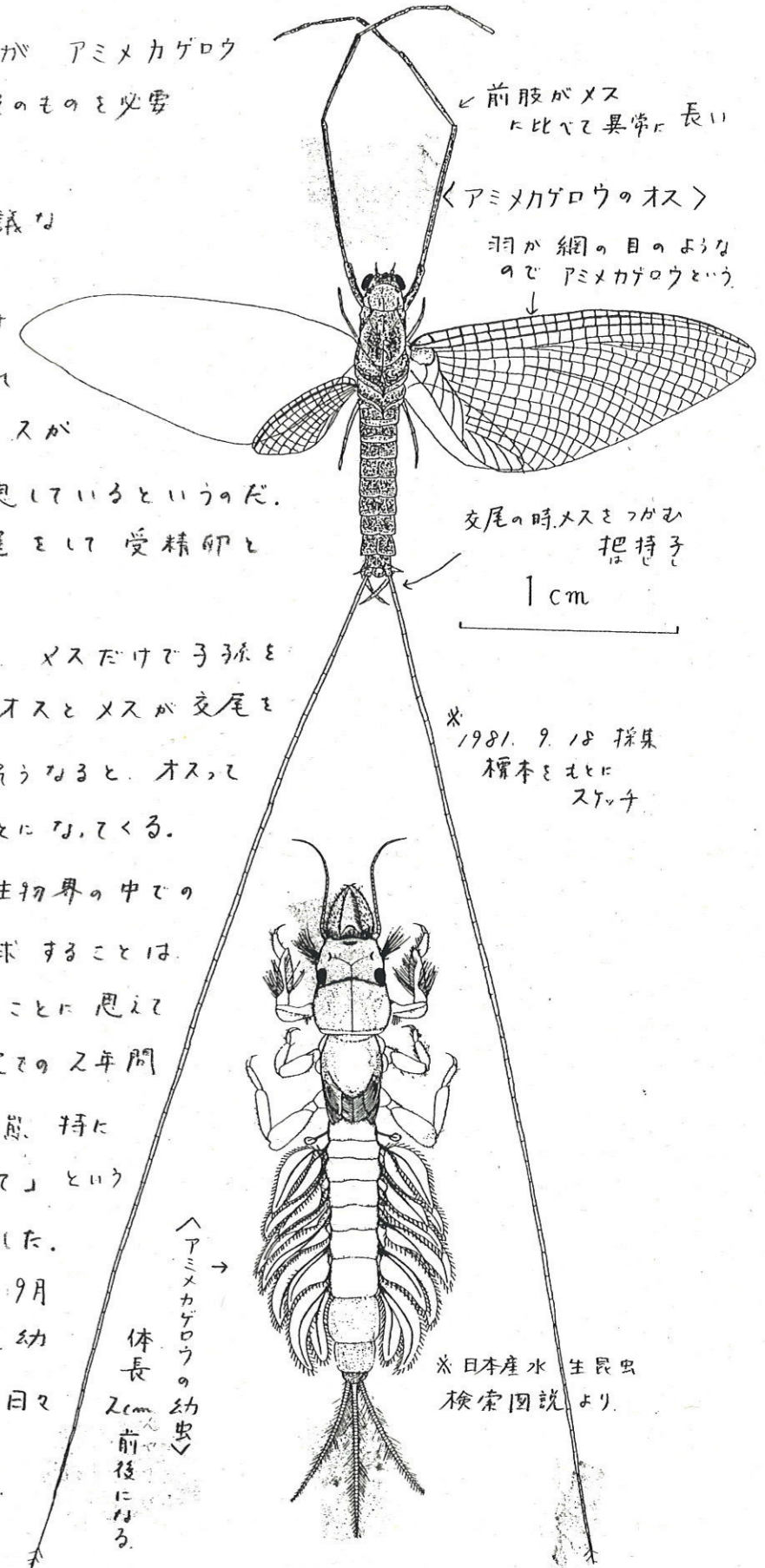
そしてオスとメスが交尾をして受精卵として産卵するのである。

つまり、ある河川ではメスだけで子孫を残し、別の河川ではオスとメスが交尾をして子孫を残す。そうすると、オス、といいたい何なの? ということになる。

特に我々男性として、生物界の中でのオスの存在意義を追求することは、何となくロマンのあることだと思ってきた。そこで、大学院での2年間を「アミメカゲロウの生態、特にオス、メスの分化について」というテーマで研究することにした。

大発生のXデーは、9月上旬なので、それまでは幼虫を採集して研究する日々が続くと思う。

Xデーの様子は、9月号報告できるとしよう。



前肢がメスに比べて異常に長い
アミメカゲロウのオス
羽が網の目のようなのでアミメカゲロウという

交尾の時メスをつかむ把持子
1cm

*1981.9.18採集
標本とオビ
スッチ

アミメカゲロウの幼虫
体長2cm前後になる

*日本産水生昆虫
検索図説より